

[006]九州大学基幹教育院LAセンターインタビューシリーズ : みつばトーク

<https://hdl.handle.net/2324/4402899>

出版情報 : みつばトーク. 6, pp.1-, 2020-06. Kyushu University Learning Analytics Center
バージョン :
権利関係 :



みつばトーク



第 6 号

2018年9月よりインタビューシリーズ「みつばトーク」を開始しました。

授業等でどのようにM2Bシステムを活用されているかについて、様々な方々にお話を伺っていきます。

M2Bシステムを使ったことがある方にもない方にも参考になるような情報をお届けしていきます。

Moodleを使い始めてからどんどん 仕事ははけていくように感じています

農学研究院
生命機能科学部門
佐藤 匡央 教授

■ 簡単に担当授業について教えてください

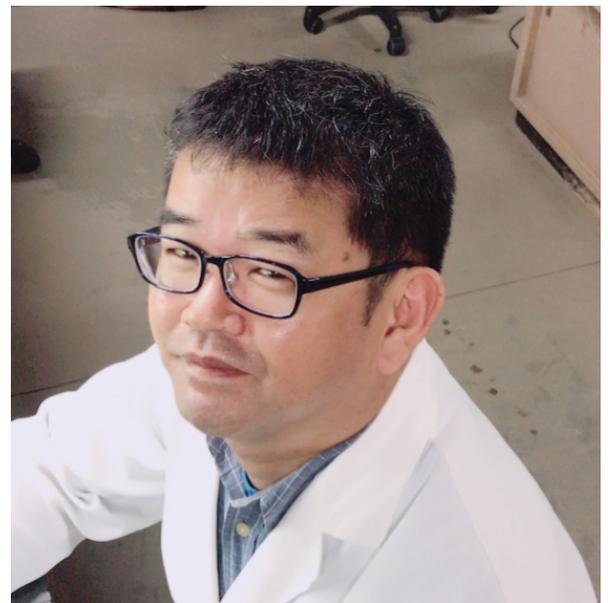
私は現在学部の後期と大学院の冬学期の授業を担当していて、一番生徒が多い授業は60人程度の授業です。

■ M2Bを使ってどのような授業をされていますか？

授業ではまずMoodleを使って出欠を確認します。授業の最初の15分間だけ出席ができるように設定しており、授業の最後にはMoodleで授業の感想を書かせています。感想は学生は携帯電話などで記入するようにして、私には記入された感想が届く様に設定をしています。また授業資料は全てPowerPointを使って作成し配布しており、ほとんどの学生は事前に配布した資料を印刷し、私が講義中説明した内容をその資料の横にメモをしています。

—— 授業資料の配布にMoodleを利用されている のですね

そうです。全ての授業資料をMoodleにアップロードしているので大量の資料がMoodle上にあります。授業資料では英語論文の図や表を掲載しています。例えばビタミンB1の体内への吸収率はこのように変化する、血中濃度はこのように変化するというような説明は、やはりグラフがある方が説明しやすいと考えています。私は論文のデータを一次データ、それを解釈したものが二次データだと考えていて、授業ではなるべく一次データを使うようにしています。なるべく一次データをもとにPowerPointで資料を作ることを心がけています。大学院の授業では、学生に論文を読ませています。農学系の大学院の学生は、だいたい自分で論文を読んでプレゼンをするという経験をしています。授業では論文の読み方を教えていて、教員がどのように論文を読んでいるのかを解説する授業をしています。



タイトルや文章構造、さらには単語から筆者の意図を読み取るような解説をしています。例えば要約の文章構造はだいたい正反合、つまりヘイゲルの弁証法になっています。だからまず“正”に値する一般論があって、その後に「しかしこうだからこのような可能性がある」という“反”に値する文がきます。そして最後に「このような目的があって今回の実験を行った」という流れになります。授業では文章のどこが正・反・合なのかを解説しています。

大学院の授業は1単位7コマの授業を通して栄養学の論文を2つ読んでいきます。それで学生に授業後にMoodleで感想を書かせて、これに私が点数をつけ評価を行っています。

今まではこのような紙（紙を見せる）を配り、感想を書かせて回収したものに点数をつけて入力していたのですが、これが全部Moodleに全部変わったことで非常に便利になりました。

■いつ頃Moodleに乗り換えられたのですか？

今年、伊都キャンパスに移転してからです。Moodleに乗り換えた当初から、最初は戸惑いを見せる学生も多くいましたが、今はどの学生も適応しています。

栄養生理学の授業では学生ではなく私がプレゼンを行っています。この授業は非常に学生数が多く、その分仕事量も多かったのですが、Moodleを取り入れてからは本当に効率的になりました。特に、化学式を出すことが楽になりました。それぞれの物質がどんな役割を持ち、どういった回路によって生体内で役に立っているのかをプリントでまとめると、大変な量になってしまいます。このような説明は論文のデータや写真を使っているのですが、学生はこれらのデータや写真を見ただけでは理解できないので黒板で授業をしているときは全部を書き写す学生もいました。Moodleでは授業資料を事前に配布できるので、学生が黒板の内容を書き写すという無駄な作業をしなくて良くなったので非常に便利です。

授業ではSciValとMoodleをリンクさせて、授業に研究動向のトレンドを取り入れることを意識しています。今年アルコールがテーマの論文を扱うことが多かったです。基本的には、九州大学が用意してくれたSciValとMoodleを両方使って授業をするようにしています。一般的に授業を負担だと考える先生も多いと思いますが、授業を負担にしない方法を考えるべきだと私は思っています。だからSciValで調べたことをきちんと毎年授業に活かしていくと、授業内容も変わっていきで私にとっても授業の内容が新鮮になりますので、自分も楽しく授業をやっています。

——学部生の授業は何年生が対象ですか？

三年生です

——学生さんも研究のトレンドには敏感ですか？

そうですね。学生もトレンドに反応していました。

「これからはこういう研究がトレンドになりますか」と聞いてくる学生もいます。

——授業は紙で実施していたと伺いましたがMoodle等のM2Bを使い始めたきっかけは？

新キャンパスに移転してWi-Fi環境や画面を映し出すモニターが整ったからです。

■Moodleのオススメの使い方はありますか？

出席確認ですね。出席は自動にしています。授業開始から15分間でのみ出席を取ります。そして時々10分間にします。時々10分にするからねと学生には事前に言うておきます。それから、資料を新しくしていけるので、ずっと形骸化させない授業ができるというのがやはりいいですね。授業資料を公開される可能性があるのも、授業資料を変えていくということが公開されることへの抑止力になっているので、やはり毎年資料のアップデートは必要かなと考えています。資料は一回作ってしまえば、あとは少しずつ変えていけばいいので、そのアップデートのためにSciValを使っています。

■Moodleを授業で使ってみていかがですか？

Moodleのおかげで今年は授業がとても楽でした。学生個人個人の出席履歴をすぐに確認でき、さらに今まで自分で出欠入力しないといけなかったものが、入力せずによく確認できるようになったのが本当に便利です。例えば、この学生はこの授業が必須なのにこんなに出席していなくて大丈夫なのかなどがすぐに確認できます。授業中Moodleの出席機能で、「この学生が来てない」とかを確認しています。それですぐに学生に対応できるのも便利です。その場で休みが多い学生に「なんで三回も欠席しているんだ？」とか言えるでしょう。そのような問題にすぐ対処できるので、お互いの被害が少なくていいと感じています。だからすごく楽です。学生に「これをしていないといけない」という仕事を抱えるストレスがないのがいいです。学生にこれを伝えないといけないという仕事を抱える時間がすごく短くなっています。Moodleを使い始めてから、どんどん仕事ははけていくように感じています。だからM2Bシステムを使わない理由がわかりません。ストレスフリーになることを大々的に宣伝した方がいいですよ。だから私がMoodleを使うと楽になると言ったのは、授業資料を作ることや採点することに対する便利さよりも、精神的なストレスがとても減るということが一番大きいと考えています。すぐに仕事をこなせるので、仕事の時間が短くなります。そのため別のことが色々考えられるというのがとても大きいです。

〔聞き手：木實新一（基幹教育院教授 ・ LAセンター長）〕

※このインタビューは2019年に行われました。

※Moodle機能の詳細についてはM2B学習支援システムの教師用マニュアルをご覧ください。

(https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/pluginfile.php/232271/mod_resource/content/19/manual.html)